

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳氏 氏

俳句

末吉俳句会

風になり合うて春待つ絵馬となる

児島 泰代

黒土に雪解け水の染み渡る

泊 康

街一つすっぽり入れて冬の虹

本浦 玲子

大隅俳句会

空よりの便り届きし初雪や

穎娃 晴美

風揚げの子らの歓声田を駆けて

福村 よう子

ひだまりと言ふ名の店や冬日向

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

逆しまに四方の山々映しゐる

湖面しづかに初日を待てり

泊 康

過ぎ去りし苦も悲しみもまぼろしに

冬陽を返す墓石を拭ふ

草野 ミツ子

蠟梅のひと枝活けて玄関に

春を招きぬ初雪の朝

宝蔵 弘二



大隅短歌会

夕暮れに突然家に飛びこみし

雀わななき室温あぐる

渡辺 哲夫

留守番の犬に吠えられ引き返す

本家の俺を知らぬか此奴

米沢 正敬

ギター弾き酒場を流す人のあり

テレビに知らぬ世界の多く

広川 ミドリ

財部短歌会

多くさんのお手々色づきもみじの葉

今が盛りか遅れし冬に

永岡 牙子

ゆく末を案ずる社会過疎の里

少子高齢化吾もそのうち

川俣 若

戦後皆力合わせし人々が
施設に集まり車椅子の列

橋口 貞男

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

高価け着物を メタボン女房あ

張い破つ

桐野 奈世

客く集すち 着物もシヤラシヤラ

派手な女将

浜田 一好

雪日和い

炬燵つ番

森山 厚香

洒落娘が

様な風邪

鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

薄し頭髮

寒か朝

無料んもてなしや

津留 群志

星と道つ

早か朝

女房化粧粧

仕組まれつ

種も仕掛も

小倉 りんりん

山田 竜生

福元 多喜子